

【資産名】

平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群—

【所在地】

岩手県平泉町

【資産概要】

平泉は、12世紀日本の本州北部において、仏教に基づく理想世界の実現を目指して造営された政治・行政上の拠点であり、平泉とその周辺には、平安時代末期に奥州藤原氏が築いた「国宝中尊寺金色堂」や「特別名勝毛越寺庭園」に代表される仏教寺院や庭園などが現在まで守り伝えられている。世界遺産としては、仏堂・浄土庭園をはじめとする5つの構成資産により構成され、その寺院や庭園は、この世に理想世界を創り出そうとしたもので、海外からの影響を受けつつ日本で独自の発展を遂げたものとして、平泉の理想世界の表現は、他に例の無いものとされている。

【構成資産】

① 中尊寺（ちゅうそんじ）：特別史跡

奥州藤原氏の初代清衡が12世紀初めから四半世紀をかけて造営した寺院。境内には、金色堂、金色堂覆堂、経蔵等の国宝及び重要文化財がある。また、鎮護国家大伽藍一区跡等、境内の全域が特別史跡に指定されている。



② 毛越寺（もうつうじ）：特別史跡・特別名勝

二代基衡が12世紀中頃に造営した寺院の跡である。境内には特別名勝に指定されている「浄土庭園」と、特別史跡及び特別名勝の構成資産である常行堂で行われる常行堂が含まれている。また、常行堂で行われる常行三味の修法と「延年」の舞は、12世紀における浄土思想の無形の要素として重要である。



③ 観自在王院跡（かんじざいおういんあと）：特別史跡・名勝

毛越寺の東に接して基衡の妻が建立した寺院。発掘調査の結果、園池を中心として、南側には大小の阿弥陀堂が設けられており、阿弥陀如来の極楽浄土の表現を意図して「浄土庭園」が設けられたことが明らかになっている。



④ 無量光院跡（むりょうこういんあと）：特別史跡

3代秀衡が12世紀後半に建立した寺院の跡。西方に金鷄山が控え、園池に浮かぶ大小3つの島に翼廊付の仏堂と拝所・舞台をそれぞれ設けた空間構成は、「浄土庭園」の最も発展した形態と考えられる。



⑤ 金鷄山（きんけいさん）：史跡

標高98.6mの山で、山頂に経塚が設けられていた。浄土思想に基づいて完成された政治・行政上の拠点である平泉の空間設計の基準となった信仰の山である。



【遺産の価値】

世界遺産一覧表に記載されるための基準（i～xのうち、iからviが文化遺産、vii～xが自然遺産の基準）のうち、人類の文化の発展に重要な影響を与えたとする基準iiと顕著な普遍的価値を有する出来事に関連したとする基準viが顕著な普遍的価値があると認められた。